



栃木県南部農業水利事業 与良川統合排水機場建設工事 / 栃木県小山市

土木事業 - 会社と社会を支える屋台骨であり続ける -

土木事業は、1919年の水力発電所建設から始まり、ダム、トンネル、シールド、都市土木、原子力発電所の設計・施工、防衛関連工事など、対応する仕事の幅を広げてきました。近年では、高速道路等のリニューアル工事、再生可能エネルギー関連工事などにも積極的に取り組んでいます。また、リニア中央新幹線、東京外かく環状道路など超大型プロジェクトにも参画し、最新の自動化、DX、省人化技術を活用し工事を進めています。

本部長方針には、「働き方改革の推進と多様な人材の育成等による魅力ある組織体制の構築」を掲げ、自分の仕事に誇りを持ち、お互いをリスペクトし、「個の力」の向上に向けて日々研鑽を重ねています。

新しい価値観やニーズに対応し事業領域を拡大しながら、インフロンピアグループで目指す「総合インフラサービス企業」を力強く推進していきたいと考えています。

市場動向と社会課題

土木事業を取り巻く市場は、国土強靱化基本計画や能登半島地震の復興、防衛施設の強靱化などにより、堅調な公共投資の持続が見込まれています。一方で、高度経済成長期に整備されたインフラ施設の更新時期を迎え、年々リニューアル工事の比率が高まっています。また、気候変動による台風や豪雨などの自然災害の増加、世界的な環境問題への関心の高まりから、いわゆる脱炭素社会に向けて、化石燃料に依存しない再生可能エネルギー（以下、再エネ）の導入が一層進んでいます。

前田建設はこれまで、風力発電や太陽光発電などの再エネ分野のプロジェクトに参加してきましたが、日本風力開発がグループに加わったことにより、今後はさらにこの分野の比率が高まることが予想されます。

一方で供給面では、建設資材・エネルギー価格の高止ま

りや労務費の上昇に加え、少子高齢化による担い手不足が顕在化しています。また、近年は半導体などの先端技術に関連する大型の生産施設の建設が増加しており、地方でも労働力不足の課題が出ています。さらに2024年度から、建設業への時間外労働の上限規制が適用されたため、元請職員だけでなく協力会社の職人の労働力不足が深刻化する可能性があり、さらなる生産性の向上と工程の確保が大きな課題となっています。

このような課題を解決し、持続可能な事業環境を確保するために、現場での生産性向上や協力会社の担い手の確保、技術レベルの維持・向上を図る取り組みを進めています。具体的には、協力会社の求人広告のサポートや職長育成支援、協力会社と共同での技術開発などを行い、生産性の向上を図っています。



前田建設工業
専務執行役員
土木事業本部長 東福 ただひこ

強みと差別化戦略

土木事業における施工面での強みは、「三現主義」(現場で現物を見て現実を知る)による高い現場力と、社是(誠実・意欲・技術)を体現した技術の追求です。さらに、本店・支店・作業所の強い連携とスピード感のある情報共有、素早い決断や対応ができる柔軟性の高い組織であることも特徴の一つです。

営業面での強みは、技術に裏打ちされた技術提案力と工期・品質・安全の確保における顧客満足度の高さです。これらは、官庁工事での競争力の高さや既存の重要顧客である電力会社との長期的な信頼関係を築くことにつながっています。これらの強みを深化すべく、人材マネジメントの強化とし

て、特に「上司力の向上」に注力しています。組織力の発揮と部下の育成には上司の役割が重要であることを認識し、本店の部長だけでなく作業所長に対し、実践を豊富に盛り込んだ2日間の研修を行っています。さらに2024年度は、前田土木3M運動を推進しており、「目的を伝える・聞く」「みんなであらう・笑顔で聞く」「耳の痛いことも言う・受け止める」をスローガンに、魅力ある組織体制の強化を進めています。



上司力研修の様子

戦略三本柱に関わる施策の進捗

「生産性改革」における現場での施策として、ICTなどを活用した生産性向上に取り組んでまいりましたが、近年は2024年問題もあり、現場での労働時間の削減に向けて工務センターの活用を中心に重点を置いています。現場で行っている書類作成や写真整理などの定型業務を支店の工務センターで行うことで、現場の職員の負担を軽減しています。また、ベトナムの現地スタッフによる国内現場支援業務も並行して行っており、現場の生産性向上を進めています。

従来の請負工事と並行し、「新たな収益基盤の確立」として、ベトナムでのバイオマス発電用ペレット製造販売事業を進めています。さらに、前期からグループ企業となった

日本風力開発が持つ開発力と前田建設のエンジニアリング力を組み合わせることで、新たなシナジーの創出が期待されます。これにより再生可能エネルギー事業領域への挑戦の機会がさらに増加することが予想されます。

「体質強化・改善」では、先に述べた人材マネジメントにおける上司力の向上に加え、労働時間の上限規制への対応として、「法令違反を越えて認められる価値観は前田建設にはない」という共通認識を各職員が持ち、自身の労働時間の管理を実施しています。また、労働災害、環境事故、品質トラブルへの対策として、過去の失敗事例から学び、再発を防止するために施工検討会を最大限に活用しています。

今後の課題

建設業界が直面する人材不足や担い手不足といった課題の解消、そして今年から建設業への適用が開始された労働時間の上限規制への対応として、労働環境のさらなる改善や、仕事と家庭の両立を意識した働き方などを推進し、建設業が魅力的な職場となることが重要です。そのために、労務宿舍の仕様・備品の標準化による環境の改善、ICT・DXの推進による技術革新、多様な働き方・人材の活用などを進めています。

また、建設以外のコンセッションなどの事業領域の拡大に伴い、これまでの建設技術の向上や伝承だけでなく、その

分野へ対応できる人材の確保が必要です。これまでの請負での経験を活かした人材の育成や計画的なローテーションにより、経験者を増やしていくことが重要と考えています。

品質トラブルや大規模な労働災害が世間を騒がせており、これらは会社の信用を失う大きなリスクと捉えています。それらを防止するため、安全・品質・環境のマネジメントシステムを確実に運用するだけでなく、本店・支店・現場の情報共有や連携を強化し、組織全体で一体となってトラブル防止に取り組んでまいります。

社員の声

前田建設に入社後、施工管理職としてダム・大規模造成・トンネル・高速道路リニューアル・道路改良と様々な工事を経験しました。現在は、神戸市郊外で道路改良工事に従事しています。第二神明道路のバイパスを造り、地域の渋滞緩和に寄与する工事です。前田建設は「風通しの良い社風」と言われます。実際にどの現場においても、現場のことを第一に考え(三現主義)、発注者・社内・協力会社と全ての関係者に誠実に対応し、若手の意見にも耳を傾けてもらっています。この「風通しの良さ」が、自身の成長につながっていると実感しています。担い手不足、長時間労働などの課題はありますが、技術力と共にこのような社風(マインド)も継承していきたいです。



前田建設工業 樋谷作業所
ひらの じゅんま
平野 純規